

ある日の育児日記から

(28)

佐藤 和代



四月から、有は0歳クラスに入園、圭は3歳クラスに進級。毎年、新学期の前は針仕事に追われますが、今年は特に大変でした。ふとんカバー二枚、毛布カバー二枚、手さげにコップ入れ、服もおしめも名前をつけて…入園前はどこの家でも、こんなことをしているのでしょうか。

それにしても、有が起きている間は、危くて針を出せません。眠っているときは、貴重な仕事の間。いつ縫ったらいいの？そこで、つねづね「子ども預けて働いている人は、忙しい上に、針仕事なんて苦手なタイプが多いのよ。どうして手

作りなんてさせるの！」と怒っていた友人に声をかけました。「夜、ベビーシッターにきて。あなたの方も縫うから」契約成立。有と遊んでらっしゃる間に、急いでミシンかけです。

このせわしさを別にすれば、私は手づくりは好き。保育園では、0歳児だって、自分のふとんを見分けるのです。園で同じカバーを用意してくれば、親は楽。でも赤ちゃんが「ぼくのふとんがあった！」とばかり、ハイハイしていったりはしないでしよう。やっぱり手づくりしてやりたい。

…と言ったら、さっきの友人に「そういう人がいるから、手づくりを要求されるものがへらないのよ」と文句を言われましたけど。

